

国指定 根知山寺の延年

山寺集落と 日吉神社

山寺集落は根知谷にあり、駒ヶ岳の麓に広がる山里です。上杉謙信が敵将武田信玄に塩を送ったという逸話で知られる塩の道・松本街道沿いにあり、信越国境に接することから、古くから交通の要所でした。

延年が奉納される日吉神社は、山寺集落の南東に位置し、大山咋命を祭神としています。この神社は、古くから山王社あるいは山王さんと呼ばれ根知谷の村社として人々の信仰をあつめ、神社の祭礼や管理のうち、舞楽に関わる部分を山寺集落が代々受け継いでいます。

毎年9月1日の秋季大祭の日に奉納され、神仏習合を色濃く残す新潟県内唯一の延年芸能で、地元では「おててこ舞」と呼ばれ親しまれています。「延年」とは、「退齢延年」という言葉に由来すると言われ、「退齢」とは「長寿」を意味し、芸能によって心をやわらげて寿命を延ばそうと、法会のあとの余興として演じられた歌や舞を指します。

山寺の延年芸能は、踊りが単純で、同じ振りを何度も繰り返して音に合わせるのが特徴で、このことから相当に古くから伝わるものだと推察されます。

根知山寺の 延年

(昭和55年1月28日指定)



1.くるいの舞 稚児二人

露払いの舞で、日吉神社の舞台上で1回とその前に行道で2回、計3回舞われます。

2.おててこ舞 大人四人 稚児四人

「露の踊」「若衆踊」「扇車」「四節踊」「三国踊」「百六」の六つの舞から構成されており、いずれも風流踊(初期の歌舞伎踊)で、それぞれに歌詞があります。扇を閉じたま踊るものと、扇を開いてやや華やかに踊るものに大別され、稚児の背中に大きな「のし」をつけて踊るのも特徴的です。

3.鏡の舞 稚児二人

山寺集落で延年への最初の参加資格を与えられるのがこの舞で、手に和鏡を持って、4～5歳くらいの稚児が舞うことになっています。最後に華(スイカやおもちゃ等)が舞台に投げ入れられるのもこの舞の見どころです。



4.花の舞 稚児二人

真赤な装束で頭に花天冠をかぶり、手には花のついた銅製のお盆を持って舞います。舞の途中で盆から切紙(花)をまくところがあり、根知山寺の延年の中では比較的華やかな舞です。

5.弓の舞 稚児二人

装束は狩衣に紫色のたっつけ袴で、右手には弓、左手には鈴を持って舞う比較的動きの速い舞です。舞台への出では左手に矢を持ちますが、途中で稚児の番子によって弓に取り替えられます。

6.鉾の舞 稚児四人

根知山寺の延年の中でも非常に優雅な舞です。花道で番子から鉾を受け取り舞台へ登場し、終わる時は再び番子に鉾を渡して楽屋へ入ります。



7.種蒔き 大人二人

神楽系の舞の一つです。男姿の「とつあ」と女姿の「かかさ」の二人が、作物がたくさん実るようお願いを込めて、「種蒔き」という農作業をものまね風におもしろおかしく演ずる芸能です。

8.しめの舞 大人一人

出雲流の流れを汲むと思われる神楽の一つ。小さな丸シメ縄を持って舞うところから名付けられたもので、素戔鳴乎尊の剛健・凶暴性を表現したものと思われ、かなり激しい舞です。最後に手にした丸シメ縄を舞台の中央に投げつけ退場する動作は独特です。

9.万歳の舞 大人二人

地元では万歳の舞と呼びますが、まさに「万歳」です。太夫が江戸の名所をうたえば、才蔵がこれをからかうという趣向で、加賀万歳の「江戸名所」にも似ています。



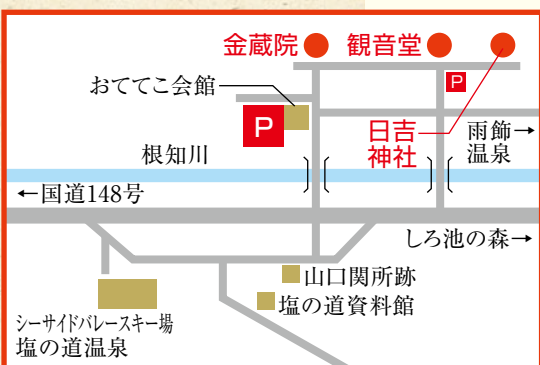
10.獅子舞 大人一人

獅子頭はライオン系、いわゆる伎楽(日本最初の外来楽舞)の流れを汲む「獅子神楽」です。主役にからむ役として才蔵がつきます。獅子と才蔵のからみあいは、根知山寺の延年の独創であると思われ、この舞の見どころの一つとなっています。

交通のご案内

【電車】
JR「根知駅」から
車で10分、バスで20分

【自動車】
北陸自動車道
「糸魚川IC」から20分



日吉神社 秋季大祭日程

※時間は天候等によって前後します。

8月31日
宵祭り

20時頃～ 神事

日吉神社拝殿

20時30分頃～ 神楽奉納

9曲の神楽が奉納されます。その昔、神主によって舞われていた舞で、いつ頃からか村人が習い覚え、宵祭りに奉納するようになったといわれています。

舞は、「あくま払い」「さんばの舞」「とびらの舞」「てんとの舞」「狩護」「魔法切り」「えまき」「盆の舞」「鯛釣り舞」の順に奉納されます。「てんとの舞」は9曲中唯一の稚児舞楽です。暗い境内にほんやりと照らされる舞台で舞われる神楽は、たいへん幻想的です。

9月1日
本祭り

10時頃～ 神事

日吉神社奥殿・拝殿

13時頃～ 稚児行列

根知山寺の金蔵院を出発し、途中観音堂からは神輿2基を加え日吉神社までの行道です。この行道は、くるいの舞で始まり、くるいの舞で終了します。

13時30頃～ 神輿の押し合い

2基ある神輿のうち1基は男神、1基は女神と言われ、この2基のもみあいは、男女神のもみあいで、深い意味があるといわれています。(現在はお走りのみ行われています。)

14時頃～ 舞楽奉納

おててこ舞の太鼓が始まり、境内は神輿の激しい雰囲気から一転、優美な舞楽の世界へと変わります。